

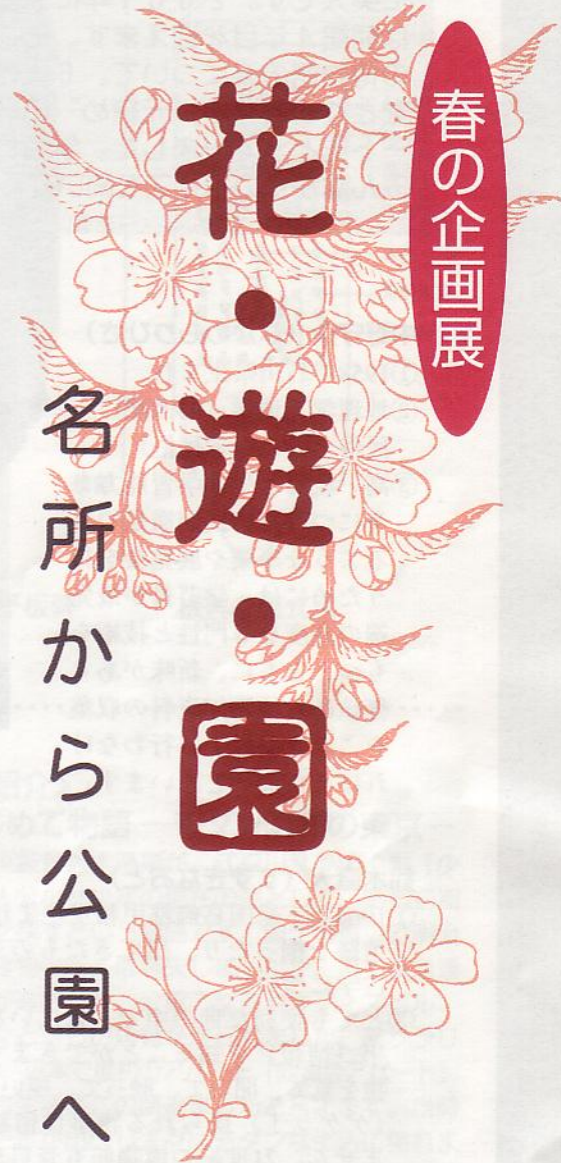
泥絵（飛鳥山）

皆さんは「公園」というと何を思い浮かべますか？ 砂場、ブランコ、ベンチ、子供の遊び場？ 公園の成り立ちをさかのぼってみると、こうした公園のイメージが近代以降に作られたものであることがわかります。

我が国で「公園」という言葉が登場したのは明治6年のこと。明治政府は古くからの旧跡や名勝地、人々が集う「遊観」の場所を公園と定める内容の布告を発しました。このとき東京では芝、上野、浅草、深川、そして飛鳥山が公園として指定されています。その後、全国に公園が増えていきますが、その大半が江戸時代以来の名所、つまり社寺境内や花の名所などの遊観の地「遊園」だったのです。

では江戸時代の人々は遊園に何を求め、どのように利用したのでしょうか。そして近代の公園は何を失い、何を目指したのでしょうか。

今回の展示では、八代将軍徳川吉宗によって意図的に「遊園」として開発され、やがて日本最初の公園、そして地域の憩いの場へと変遷した飛鳥山を中心に、都市における遊園そして公園の位置付けと意味の変化を探っていきたいと思います。



【会期】 4月29日(祝)

）

6月18日(日)

※観覧時間は午前10時から午後5時

【会場】 特別展示室

【休館日】 毎週月曜日、5月2日、9日

観 覧 無 料



飛鳥山の出土品

【展示解説】 日時:5月3日(祝)・5月28日(日)

午後2時から(約30分)

講師:当館学芸員

*当日、特別展示室にご来場ください。

今年(2000年)は西暦2000年。ミレニアムという言葉がなんだか気分をハイにしがちですが、本当の意味で今年こそ世紀末なのです。そして来年2001年は、そう、ついに21世紀に突入です。2001年に北区飛鳥山博物館は開館4年目を迎えます。そこで、21世紀の博物館の姿について、6人の学芸員とこれを取りまとめる“元締め”の計7人にアンケートをとってみました。学芸員の紹介がてらみんなからのボイスを聞いてください。

中野守久 (なかのもりひさ)

- ①1958年石川県生まれ
- ②地理学・地学(第四紀)・民俗(特に有形民俗)
- ③高い教養と生涯学習能力を身につけた市民が満足できるような事業や展覧会を行うためには、学芸員が最先端の高度な専門性と技術をもつとともに、新味があり価値ある博物館資料の収集をこれまで以上に行わなければならないと思います。



後列左から、岩崎、伊藤、久保埜、平野
手前左から、鈴木、石倉、中野

鈴木直人 (すずきなおと)

- ①1964年下総国葛飾郡甲和里生まれ
- ②遺跡を掘ったり、出てきたものを調べたり、考古学について
- ③とても便利な世の中で、家にいながら様々な物事(情報)を知ることができます。しかし、本物を見て、聞いて、触って、嗅いで?、舐めて?(ゲゲッ!) 得られる物事は何物にも代えられません。21世紀の博物館も資料を第1に考えて活動していくことでしょう。今以上に五感に訴える展示や活動を充実させたいですね。

岩崎みどり (いわさきみどり)

- ①19??年長野県生まれ
- ②文学・図書関係・博物館事業の紹介
- ③今後は博物館に対する要望や役割も更に多様化していくと考えられます。個々の博物館の特性や、博物館のもつ概念にとらわれすぎず、良いものは柔軟に取り入れていく姿勢も大切になると思います。そして、総合的な文化の発信地として常に理想は高く、質の向上に努め、保守的でない博物館が増えるといいですね。

- ①生年・出身地
- ②専門・担当
- ③21世紀の博物館について

伊藤真諤 (いとうまこ)

- ①1956年長崎県生まれ
- ②わがまま軍団の元締め・事業運営のとりまとめ
- ③今、東京23区のすべてに歴史系の博物館・資料館があります。市町村合併のように区でも合併という話がもちあがるかもしれません。北区飛鳥山博物館がこれからどうやって生き残っていくか常に考えていく必要があります。(新しく大きいでは理由にはなりませんからね)

石倉孝祐 (いしくらたかすけ)

- ①1958年東京都生まれ
- ②昔の人々の暮らしを文字に書かれた資料から考えています。
- ③21世紀においても私達はモノ資料を介して過去と未来が向き合う現代の一点に賭けるでしょう。モノは文化です。モノを前にした驚き、モノを知る喜び、モノへの憧れ、さまざまなモノがたりをこれからも紡ぎだしていきたいと、真に思う今日この頃です。

久保埜企美子 (くぼのきみこ)

- ①19??年東京都生まれ(心は明治生まれ?)
- ②地域の生活、その道具に関すること・学芸風紀係?
- ③「本物を生で」という博物館は情報化が進む21世紀においても存在価値があると思います。館側の理想ばかり先走って利用者をしらけさせていた時代に終わりを告げて、かといって迎合するのではなく、「共に学び、共に考え、共に生きる場」に育っていくと良いと思います。

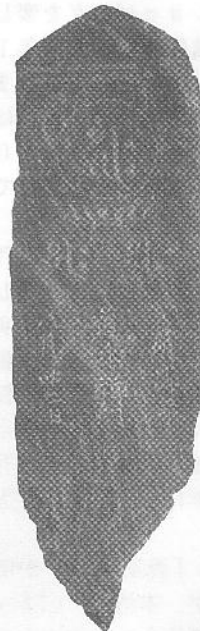
平野祐子 (ひらのゆうこ)

- ①19??年埼玉県生まれ
- ②博物館事業の紹介・イメージアップ?
- ③ただ、一方的に見せるだけではなく、追体験ができるような展示になるといいなと思います。そういえばドラえもんって21世紀からやって来たんでしたっけ? 展示室から“どこでもドア”で実際に資料が使われている様子や人々の暮らしぶり、事件の現場などを見にいけるようになったりして!? えっ、なにに、ドラえもんは22世紀のロボットなの! 失礼しました。

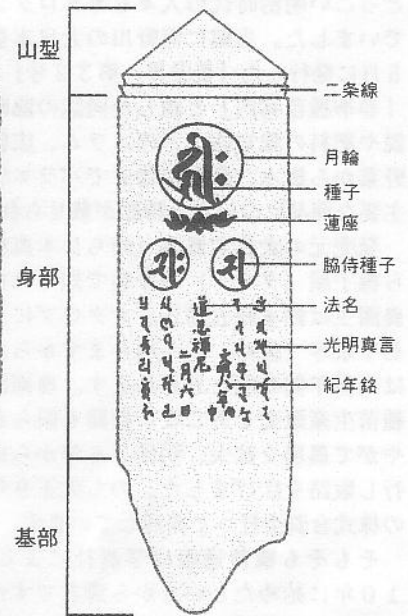
イージー・オーダーの中世板碑

常設展示室の目立たない隅に、ひっそりと展示されている中世の板碑にお気づきでしょうか。今回はこの板碑の見所についてお話ししましょう。板碑とは鎌倉後期から戦国末期にかけて盛んに造られた石製の遺物です。青石塔婆とも、板石塔婆とも呼ばれます。多くの板碑は、表面に主尊を梵字（サンスクリット文字）で表し、またマントラ（真言）や造立年号、奉納者名を刻んでいます。生前に死後の世界を考えて供養する逆修や、故人を供養するための追善のために造られました。板碑は北は北海道から南は九州南部にまで分布していますが、関東地方で一般に発見される板碑は、縦に剥離しやすい緑泥片岩で造られていて武蔵型板碑と呼ばれ、産地がほぼ特定されています。それでは武蔵型板碑の産地はどこでしょうか。それはずばり、荒川上流の埼玉県は長瀨町と小川町です。現地では現在でも原石の露頭断面を見ることができます。これらの石は原石地で切り出され、大体の型に成形され、発注のあった各地に水運で運ばれたようです。そして消費地で細かい注文者のオーダーに従って加工したものとされます。いわばイージー・オーダーに造られていたのです。北区の場合は岩淵町まで荒川の水運で運ばれたのでしょうか。岩淵には鎌倉時代後期から宿場が発達し、また室町時代中期の古文書「二階堂行崇書状写」や「関東公方御教書」によると川関が設けられ、ここを通過ないし陸揚げされる物資に税金をかけたことが分かっています。重たい石を輸送するには陸上交通よりも水運の方

がずっと便利で、中世の関東は内陸まで水上流通が発達しました。北区で見つかった板碑は盛んな物資の流通と経済活動を示す貴重な資料と考えられます。



阿弥陀三尊種子板碑



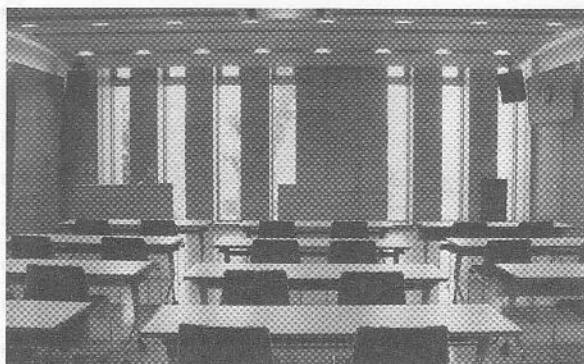
板碑の模式図

情報ボックス

〈博物館・あの部屋この部屋〉

～講堂・調整室～

講座、講演会などが行われる2階の「講堂」。ここには様々な視聴覚機器を設置しています。講堂の正面には可動式のスクリーンがありスクリーンを下げると外光が遮られ、講堂が映写室に早変わりします。他にも写真や資料などをスクリーンに拡大して写す投影器やOHPがあり、視聴覚資料を使いながら講義することが出来ます。またスライド資料やスライド映写機も収蔵しています。講堂に隣接して視聴覚機器を操作する「調整室」という小さな部屋があります。ここには16ミリ映写機、ビデオデッキ、レーザーディスクプレーヤー、オーディオ機器、音声ミキサーなどがあり、映像や音響を調整します。当館は常設展示にも映像展示が多くあり、今後も「ビジュアル講座」等の中で更に映像を活用していく予定です。

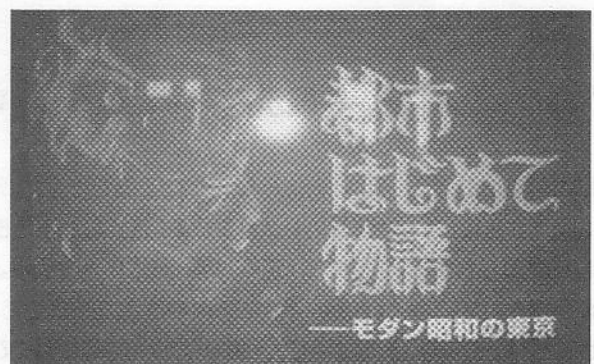


講堂

〈収蔵ビデオ紹介〉

都市はじめて物語 —モダン昭和の東京—

この作品は映画監督鈴木清順が、江戸川乱歩の小説「少年探偵団」の主人公小林少年の現在の姿として、昭和初期の東京の建築物を探すという物語です。関東大震災で明治期の煉瓦造りの建物の多くは焼失しましたが、震災後急速な東京復興計画が進められ、公園の整備やオフィスビル、デパートなど次々と新しい建物が作られました。又サラリーマン増加に伴い、日本で最初のアパート「同潤会アパート」ができ現代の都市生活はこの頃始まったと言えます。当時銀座にはモガ・モボが出現し人々はモダンな生活に憧れました。現在は見ることの出来ない旧東京駅や丸の内ビルディングの姿も写されています。この作品に映し出される第一次世界大戦前1920～30年代の一時期に花開いた都市文化は今では夢のような懐かしさも遠い出来事に感じられます。



ビデオのタイトル画面

お知らせ小窓

館内の2階と3階に情報板を設けました。知ってお得、見て納得。これからは注目！

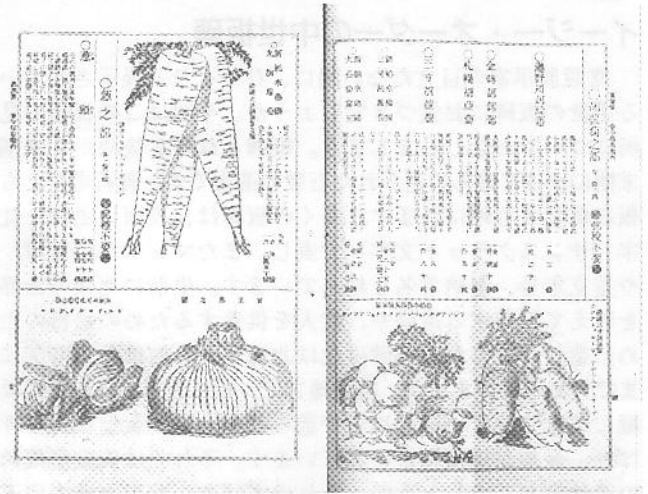
明治時代の種苗カタログ

春はガーデニング・ファンならずとも、土いじりが楽しくなる季節。ガーデニングの主役となるのは種や苗ですが、通信販売で購入している方も結構多いのではないのでしょうか。

通販というと近年発達した流通システムのように、どっこい明治時代の人々もカタログショッピングを楽しんでいました。当館に滝野川の大日本農園が明治38年1月5日に発行した『農業界 第32号』という冊子があります。「春季種苗案内」と題した同誌の臨時増刊号で、内容は論説や肥料の鑑定法などのコラム、広告などを含め全40頁。野菜から樹木、観賞植物までバラエティ豊かな品揃えで、主要な商品については挿絵が載せられています。

発売元の大日本農園（のち日本農林社）は、江戸時代から種子屋（タネヤ）の存在で知られた滝野川にありました。農園主は鈴木政五郎氏。カタログに「弊店は創業以来実に七十余年（後略）」とありますから、タネヤとしての創業は天保年間の頃と思われる。農園設立当初は農業の傍ら種苗生産販売をおこない販路も限られていたようですが、やがて農場を拡大、明治36年からは「農業界」を毎月発行し販路を広げました。のち大正9年には資本金50万円の株式会社へと発展しています。

そもそも種苗通販は学農社による「農業雑誌」が明治10年に始めたというから驚きですが、本格的に広まったのは郵便や交通などの制度が整った明治30年頃からです。現在の大手業者・タキイ種苗が明治38年、サカタのタネが昭和6年からのカタログ発行といえますから、大日本農園の通販への取組はかなり早かったと言えるでしょう。しかも当時販売のみを行う通販業者が多いなかで、生産から販売、



『農業界 32号』

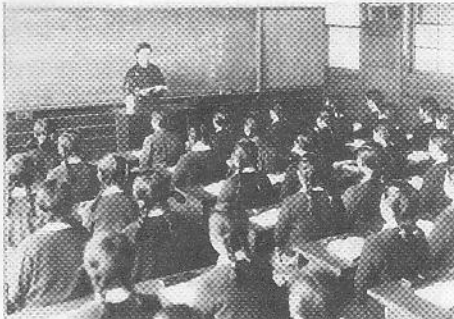
海外輸出入まで一貫して行う同農園の姿勢は注目すべきものがあります。

カタログをみると、種子では滝野川原産の滝野川牛蒡が1合12銭、滝野川胡蘿蔔（にんじん）が1合3銭など、比較的安く提供されています。新品種のフランス産苜蓿甘藍（キャベツ）などは1合1円50銭と高価になりますが、どの品種も少量で良ければ1袋2・3銭の一律料金で購入できます。園芸植物については10種1組のまとめ買い特価も実施、また合計金額によって割引率が設定されるなど、現在の通販に通じるサービスです。

現在通販の発達は著しくカタログも豪華になる一方ですが、この冊子からは植物の成長を想像しながら選ぶ種苗カタログの楽しさの原点が伝わってきます。

写真に見るあの日あの時

昭和21年春・城北高等女学校



写真は戦後もない都立城北高等女学校（現・都立城北高等学校）の授業風景です。女学生達が授業に聞き入る様子を見る限り、約7ヶ月前まで戦禍に見舞われていた学校とは想像できません。城北高等女学校の前身・府立第14高等女学校は昭和17年に浅草から袋町（赤羽北）に移転しましたが、学徒勤労動員が本格化すると、女学生達も学校付近の軍施設や軍需工場で作業にあたりました。それゆえ、昭和20年には激しい空襲にさらされ、命を落とした生徒もありました。写真から伝わる清々しさは平和と共に勉学を取り戻した喜びの表れなのでしょう。のち共学となった城北高等学校ですが、今年4月からは同高校内に新しく都立桐ヶ丘高等学校が開校し、現在の在校生を最後に城北高等学校は幕を閉じます。

Q&A

展示資料はどのくらいあるのですか？

常設展示室には、いったい何点くらい資料が展示されているのでしょうか？そこで、実際に数えてみました。数え方にもよりますが、その数およそ600点!!しかし、博物館全体の収蔵資料からすると、これらはごくごく一部にすぎません。博物館には、実に膨大な資料が保存されています。普通、博物館の資料は増えるだけで、まず減るということはありません。それらを収蔵管理するのが、博物館の大きな仕事のひとつなのです。



常設展示室

博物館的日常生活

ある寒い冬の午後、Nが出張先から職場に戻ると、同僚の学芸員のKさんから声がかかりました。Kさん「西ヶ原にお住まいの方から連絡がありまして、不要な古い道具があるそうで、もし必要なら、取りにきてほしいそうなんです、どうしましょうか？」N「何という方？」Kさん「館ヒロシさんです」N「で、ものは何？」Kさん「行火炬燵と貧乏徳利だそうです」N「ありふれたやつ？」Kさん「炬燵はそうだと思います。徳利には町の名前やら文字が書かれているそうです」N「確か西ヶ原の銘の入った徳利はまだなかったよね。行火は沢山あるからお断りしようか。まだ日が高いから早速お邪魔してみよう！」2時間後、館さん邸から戻ったNさんにKさんが声をかけました。「どうでしたか？」N「いやあ危ないところだったよ。ちょうど古い家の取り壊しの最中でさ。焚火にくべられそうになっていたものの中にこんなものもあって、いただいてきた」それは戦前の頃から比較的最近までの町内見取り図や地元商店の売り出しの古いピラなどが丸められている色あせた紙の束でした。Kさん「わあ！それは寒いなか出掛けた甲斐がありましたね」……。

フィクションではありますが、経験に基づく限りなく現実に近い会話です。生活用具など民俗資料の寄贈を受ける際は博物館で所蔵しているストックと照合しながらできるだけバリエーションに富む収集をしていくわけです。行火炬燵はデッドストックになっている定番の資料なので、必要以上に増えると活用がたがいません。したがって、こういうお話が舞い込んできたときは事情をご説明してお断りすることもあるのです。一方、貧乏徳利には当時の酒屋さんの屋号や町の名前などが焼き込まれていることがあり、こうした場合活用できる機会が多いのです。恐らく館さんは几帳面な人だったので、町内見取り図は町の掲示板などによく貼られたものですが、役目を終えたものをもっておいたに違いありません。こういった類の資料は意識的に保存してないと第三者によって処分されることが多いのです。残存率は低いので、地域資料として誠に貴重です。

博物館は活用できる価値ある資料を常時探しています。活用できるか否かは専門の学芸員が随時判断します。心当たりのある方はどうぞご遠慮なく博物館までご連絡下さい。

博物館めぐり

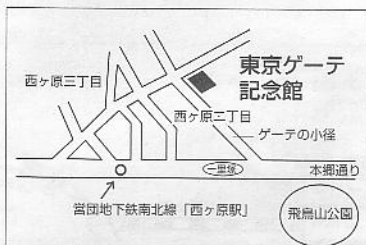


～東京ゲート記念館～

北区飛鳥山博物館から本郷通りを上中里方面に進むと、「ゲートの小径」のプレートがありそこを入ると白い洋風建築の東京ゲート記念館があります。荘厳な佇まいの扉の中はゲート資料の宝庫なのです。東京ゲート記念館が現在の地に開館したのは1988年。そもそも実業家の粉川忠氏がゲートの資料収集に魅せられ、ゲートの研究機関として設立したのが始まりです。主な活動はゲートの研究者への資料提供、一般の来館者向けの展示活動、ゲート資料の収集です。収蔵資料の大半は図書資料で15万点にもものぼり、他にも絵画、ポスター、映像資料なども収蔵しています。展示室では資料の一部を年2回の展示で紹介しています。昨年開催された「ゲート生誕250年記念展」を見せて頂きました。ゲート作品の挿絵を集めた大型豪華本や、グラフィックデザイナーによるパネル作品、ドイツ発行の250周年記念ポスター、ゲートのキャラクター商品と多彩で、ゲートが詩人・文学者以外にも政治家、劇作家、自然科学者、美術研究家であった多くの側面に触れることが出来ます。圧巻は、日本で初めてゲートの翻訳本が出た明治から今日までの訳書を時代順に展示したもので、ゲートが日本で非常に愛読されていたことが分かります。現在の館長の奥様である粉川美那子さんは今後はゲートが正しく理解され、広く知られるような活動をしていきたいと語っておられました。

今年の展示は4～6月は引き続き「ゲート生誕250年記念展」、8～12月は新企画を予定、内容は未定。

住所：北区西ヶ原2-30-1 / 交通機関：営団地下鉄南北線西ヶ原駅より徒歩3分



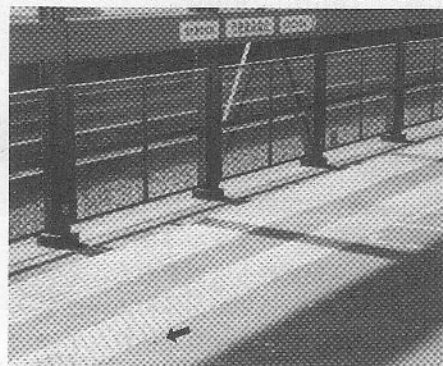
利用案内

開館時間：火曜～土曜、11時～17時30分 / 休館日：日・月・祭日
 (展示は4～6月、8～12月)
 展示観覧：無料 / 資料閲覧：要予約
 ☎ 03(3918)0828

おもしろスポット!

「浮間舟渡駅ホームの“丸ぽっち”の秘密」

JR浮間舟渡駅ホームの、黄色い誘導ブロックの少し内側に、上下線とも金属製の丸いぽっちがひとつずつ付いています。見落としてしまうほど控えめに付いているこのぽっち、なんだかご存じですか？実はこれ、北区と板橋区の区境マークなのです！ですから、このぽっちとぽっちを結んだ線が、北区と板橋区の境界線ということになります。つまり浮間舟渡は二つの区にまたがった駅なのです。でも、住所は北区浮間。それはね、駅長室が北区側にあるからなんですって！さて区境はどこか、探してみたいはかが？



ヒントはこの写真!!

4月

ミニ展示
「写真は語る－王子」

3月22日(水)
～4月23日(日)

5月

北区・12ヶ月めぐり
(全12回)

企画展
「花・遊・園－
名所から公園へ」

4月29日(祝)
～6月18日(日)

6月

第4回遺跡探訪
文学散歩

7月

夏休みこども土器づくり教室
夏休み親子土器づくり教室
ビジュアル講座2000

8月

夏休みこども土器づくり教室
これは何だ？
王子土産をつくる
田楽フォーラム
民族楽器をつくる
第3回博物館クイズラリー
企画展講演会

企画展
(仮称)
「豊島馬場遺跡と
方形周溝墓」

7月22日(土)
～9月10日(日)

*各催し物は仮称です。

お耳を拝借！

・ミュージアムトーク

4月いっぱい、毎週日曜日・午後2時より1時間程度、学芸員による展示解説を行います。

・ビジュアル講座2000

奇数月の第4土曜日に実物資料やビデオなどを使い、学芸員が毎回異なるテーマでお話しします。

・博物館クイズラリー

またまた博物館の資料が怪盗コン吉に盗まれた！様々なクイズに答えて、みんなでそれを取り戻しましょう。グループでの参加になります。

・「(仮称) 豊島馬場遺跡と方形周溝墓」展

豊島馬場遺跡からは方形周溝墓と呼ばれるお墓が100基以上発見されています。しかし、これらの一部はお墓ではなく住居址なのではないかという声、近年の研究結果からあがっています。はたしてお墓なのか、住まいなのか。あなたはどちら派？展示を見て考えてみてください。

利用のご案内

【開館時間】 午前9時30分～午後5時

(平成12年4月1日から午前10時から開館)

(有料の展示室への入場は午後4時30分まで)

【休館日】 毎週月曜日(国民の祝日・振替休日の場合は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

国民の祝日および振替休日の翌日(土曜・日曜日の場合は開館)このほかに臨時休館日等があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体
一般	300円	240円
小・中・高	100円	80円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・三館共通券は当館のほか、
渋沢史料館、紙の博物館の
3館をごらんになれます。
(一般720円小中高320円)



編集後記

早いもので開館以来3度目の桜の季節を迎えようとしています。「さく・La」展から始まり企画展も8回を数え、その他様々な事業を行う中で当館の方向性を模索してきました。3年目の節目の年に当たり、今号では学芸員スタッフの紹介

も兼ね、21世紀の博物館像を語る記事を組んでみました。次号は全紙面リニューアルしたものを計画中ですのでご期待下さい。今後も来館者の皆様と共に歩む博物館でありたいと思いますのでご意見等をお寄せ下さい。(M.I)

北区飛鳥山博物館だより ぼいす Vol.4

発行 平成12年3月15日
編集 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL.03-3916-1133
発行 東京都北区教育委員会
〒114-0022 東京都北区王子本町1-2-1
TEL.03-3908-1111(代)
印刷 (株)内国社印刷所